

「兵庫県新型コロナウイルス感染症対策検証報告書」の取りまとめにあたって

令和2年3月1日に県内で初めてとなる新型コロナウイルス感染症の感染者が確認されて以来、3年超にわたり、全庁一丸となって前例のない感染症危機対策に取り組んできました。

感染症法上の位置づけが5類感染症に移行するまでの間、専門家も参画する対策本部会議を計81回開催し、社会経済活動との両立にも配慮しながら、緊急事態措置をはじめ、検査・医療体制の確保など、県民の生命と生活を守るために必要な対策を行いました。

5類移行後には、コロナ禍前よりも良い社会を創る「創造的復興」の理念のもと、県民や市町、各種団体、専門家のご意見も伺いながら、本県の取組の検証を行い、保健医療や社会活動など8つの分野ごとに、課題と教訓を整理して、今後の対応方針とともに取りまとめました。本検証で得られた課題や成果は、「兵庫県新型インフルエンザ等対策行動計画」に反映するなど、今後の新たな感染症への備えに活かしていきます。

最後に、コロナ禍において、感染対策にご理解・ご協力をいただいた県民の皆様をはじめ、様々な社会生活を維持するため、献身的にご活動いただいた医療、福祉、運輸、清掃分野など全てのエッセンシャルワーカーの皆様に対して、改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

兵庫県知事 齋藤元彦